

ラジオ波焼灼術（RFA）早期乳癌適正使用指針
（一般向け）

日本乳癌学会

● 乳癌ラジオ波焼灼療法適正使用指針

患者選択規準

適格基準

- ・ 針生検で組織学的に通常型の原発性乳管癌であることが証明されていること。
- ・ 腫瘍の大きさが、造影 MRI 検査、超音波検査を含む術前画像検査すべてにおいて長径 1.5cm 以下の単発限局性病変であること。
- ・ 癌の皮膚浸潤や皮膚所見（Delle）が認められないこと。
- ・ 今回の乳癌に対する前治療（化学療法・ホルモン療法・放射線治療など）の既往がないこと。
- ・ 年齢が 20 歳以上の女性である。
- ・ 術後放射線治療が実施可能なこと。
- ・ 手術、全身麻酔に耐えうる臓器機能を有すること。
- ・ 術前診断にて腋窩リンパ節転移がないこと。

適応除外基準

- ・ 妊娠中、もしくは妊娠している可能性がある症例。
- ・ 心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器を留置している症例。
- ・ 局所の活動性の炎症や感染を合併している症例。
- ・ 重篤な心疾患、脳疾患を有している症例。
- ・ 人工骨等のインプラントにより、対極板を貼付できず、RFA が適切でない症例
- ・ 抗血小板療法、抗凝固療法等、止血困難が予想される症例。
- ・ 画像上広範囲の乳管内病変の存在や多発病変の存在が疑われる症例
- ・ マンモグラフィ（MMG）で広範な石灰化を認める症例。
- ・ 温存乳房内再発を含む異時性の同側乳癌症例。
- ・ 他臓器転移を認める症例。

● 施設基準

- ・ 診療科：外科または乳腺外科
- ・ 実施診療科の医師数：常勤医師 2 名以上
- ・ RFA 術者要件を満たした常勤の乳腺外科専門医または乳腺専門医が配置されていること。
- ・ 病理部門が設置され¹、e ラーニング（病理用）を受講した病理専門医が配置されていること。
- ・ 麻酔科専門医が 1 名以上配置されていること。
- ・ 新専門医制度の基幹・連携施設であること。
- ・ NCD 乳癌登録を実施していること。
- ・ 対象とする疾患の治療について、専門的知識を有す複数の診療科の医師らによるチーム²のもとで適応にかかる患者選択の妥当性を協議する体制を有す施設であること。

- 治療後の適切なフォローアップ体制を有す施設であること。
- 緊急時に適切な処置を講ずる機能を有す施設であること。

* 注記：将来的な施設監査も視野に入れておくこと

1. 外注は不適格
2. 院内多職種カンファレンスの開催など

●術者要件

- 乳腺外科専門医または乳腺専門医
- 当該診療科の経験年数：5年以上
- 日本乳癌学会が監修するラジオ波焼灼療法 e ラーニング（術者用・病理用）を受講していること
- 当該医療技術の経験症例数：実施者〔術者または助手〕として3例以上
- その他：3例実施までは経験医師の監督・指導のもとで実施すること。経験医師：3例以上の経験がある医師
- 術者は RFA 実施症例の使用調査と NCD へ症例登録を行う。